

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容 ○短期経営目標の達成は、単年度でできるものではなく、次年度の担任にも引き継いでもらいたい。 ○もっと積極的に生徒の様子を地域に発信してもらいたいと共に、保護者の協力をどう得るのか検討が必要である。 ○個人を大切にすることも大事だが、学校全体で大きな目標に向かっていくのもよいと思う。	児童生徒の現状 ○中学校卒業後の自己実現に向けて意欲的に学習に取り組む生徒も多いが、キャリア形成に前向きになれない生徒に対し支援が必要である。 ○課題を見つけたり、解決したりする活動に進んで取り組んでいるが、伝えたり発信したりする力を十分に育成できていない。 ○自ら進んで学びを広げる力は高まってきたが、自分の考えをしっかりと発表することができにくい。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	コミュニケーション力 協調性・思いやり 駅家に愛着と誇りを持ち 主体的に行動する児童生徒 ○「認知のしくみ」から設定したテーマを踏まえた授業を行う ○保護者、地域と連携したふるさと学習を積み上げる ○自ら課題を見つけ、他者と協力して地域貢献できる子どもを育成する。
---------	--	---	---	--

Ⅲ 自 校

ミッション							
未来・地域から預かった生徒が、故郷に愛着と誇りを持ち、自立して社会に貢献できるよう、励ましながら鍛える。							
学校教育目標							
自立して 社会に貢献できる 生徒の育成							
現 状							
○生徒アンケート（肯定的解答率 単位％）							
授業はよくわかる		84	学校へ行くのは楽しい	77			
授業で考えることは面白いです		78	みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくろうとしている	77			
授業で友達と話し合ったり自分の考えを深めたりしている		80	今学期図書館を利用した	26			
○令和3年度全国学力・学習状況調査結果 （ ）は市平均 単位％							
国語	19(H31)	21(R3)	22 (R4)	数学	19(H31)	21(R3)	22 (R4)
	65(72)	59(63)	66(69)		48(58)	46(53)	44(51)
○体力運動能力調査					理科		
県平均以上の項目数 18項目中3項目					46(49)		

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	問題解決力 コミュニケーション力 協調性 チャレンジ				
めざす 子ども像		問題解決	コミュニケーション	協調性	チャレンジ
	1年	多様な視点から物事を考えることができる	自分の考えや思いを理由を明確にして伝えることができる	相手の立場が尊重できる	自らの目標を持ち、目標達成のために何事もあきらめずに取り組むことができる
	2年	自ら課題を発見し課題解決のための自分の考えを持つことができる	事実と意見を区別して相手に分かりやすく伝えることができる	互いに関わりながら相手の立場を考えた行動ができる	自らの夢や目標を持ち、その実現に向け何事にも最後まで粘り強く取り組むことができる
	3年	望ましい解決策を導き出すことができる	自分の考えや思いを論理的に相手に分かりやすく伝えることができる	互いに関わりながらその場に応じた行動ができる	自らの夢や目標の実現に向けての見通しを持ち、失敗を恐れず最後まで粘り強く取り組むことができる
研究	テーマ	「FEEL」 ・ 関係の質から始めよう			
	内容等	生徒の実感（FEEL）を大切にし、生徒の主体性を育む学びの実践を行う。 生徒、保護者、教職員の良好な人間関係を構築し、思考の質、行動の質を向上させ、結果の質を追求する。			
めざす授業の姿		・ 目を輝かせて、楽しそうに、教科の内容について考え、発言している。 ・ 他者との対話を通して、自分の考えを見直したり、新たなことに気付いたりしている。 ・ 課題を解決するために、既習事項を関連付けて、考えたり、話し合ったりしている。 ・ 自分の考えを、言葉や数、図、思考ツール等を用いて、筋道を立てて説明している。			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家南中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力ベ 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期・中期経営 目標の達成状況	力ベ 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	生徒が自ら選 択・決定し、行 動することを入 意にしたい入 意づくりへの 転換	★	継続	日々の授業に、教 師が説明する場 面だけでなく、生 徒が自分から考 えたり話し合っ たりする場面が ある。	全教科で共通して 実施する活動や発 問等を設定し、日 々の授業で実施する。	生徒アンケートの 学びに係る質問項 目の肯定的評価8 0%以上の割合を 前年度以上にす る。 (前年：41/70)	・生徒アンケート の学びに係る質問 項目 70 項目のう ち、 58 項目が 80%以上であっ た。	2	2	・授業参観週間 を設け、生徒が 自ら考え、話し 合う場面や学 びが深まる I C T の活用法 などを学び、授 業に生かす。					
			新規	すべての授業者 が教科の面白さ や本質を捉えた 授業を行う。	教科の面白さや魅 力を引き出す教材 研究を深め、子ども 主体の学びへと授 業改善を行う。	生徒 アンケート 「授業で考える ことは面白いで す」の肯定的評価 を前年度以上に する。 (前年度：78%)	・生徒アンケー ト「授業で考える ことは面白いで す」は 75%であ った。	2	2	・発見や驚きの ある時間をつ くり、関心や意 欲をもって学 習に取り組む 授業を行う。					
2	生徒が「学校へ 行くのが楽しい 」と感じること ができる学 級や学年の創 造		継続	すべての学級で 生徒が課題を主 体的に話し合い、 合意形成し、改善 に向けて行動し ている。	生徒が主体的に 企画・運営する学 校・学年行事の実 施 学級活動におけ る話し合い活動 の実施	生徒アンケート 「学校へ行くの は楽しい」の肯定 的評価を前年度 以上にする。 (前年度：77%) 新規不登校生徒 数を前年度以下 にする。(13名)	・「学校へ行くの は楽しい」(今年 度：75%) ・新規不登校生 徒数 (10月1日時点 7名)	3	2	・「学校へ行く のが楽しい」と いう生徒アン ケートの問い の理由の項目 作成、原因の分 析を行う。 ・不登校生徒に 対して継続し て家庭連携を 行う。					
3	元気・笑顔で勤 務する教職員の 育成を通した 学校組織力の 向上		新規	教職員が主体性 を発揮し、学年や 分掌において、新 たなことに挑戦 する学校づくり を推進する。	教職員同士の生 徒の姿を中心と したコミュニケ ーションの活発 化 各部会、学年会の 活性化	100 年教育アン ケート「仕事にや りがいを感じて いる」肯定回答を 前年度以上にす る。 (前年度：78%)	100 年教育アン ケート「仕事にや りがいを感じて いる」 (今年度：79%)	3	3	・学校改革に向 けて、教職員の 主体的な研修 やアイディア や挑戦を実 践の実際として いく。					

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評価基準		評価基準		評価基準	
評価点	評価基準	評価点	評価基準	評価点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。